

71年の歴史に幕を閉じる神戸銀行協会ビル

旧居留地にある神戸銀行協会ビルが2023年7月着工予定で建て替えられることになりました。昭和の名建築とされ、地元経済界の交流の場ともなってきましたが、建築後71年になります。地上11階、地下1階の新しいビルに生まれ変わり、2025年4月に完成する予定です。

同ビルは1951(昭和26)年に建てられました。住友ビルディング(大阪)、大阪カテドラル聖マリア大聖堂(同)などで知られる建築家長谷部鋭吉が手がけました。地上5階地下1階で、クリーム色の外壁、1階南側の大理石の列柱、丸や横長・縦長の窓などが特徴。同協会のほか、神戸銀行倶楽部が入り、財界人の社交場としての役割も担ってきました。かつてはゴルフ練習場や理髪店もあったそうです。

ビル内の手形交換所では毎朝、金融機関の担当者が手形を持ち寄りて交換し、決済しています。机の上には計算機が並び、手作業で業務を続けてきましたが、全国銀行協会は11月に手形交換所を電子化し、人手を介して持ち寄る作業は不要になります。ビル内の神戸銀行協会は11月に三井住友銀行神戸本部ビルに移転します。

新しいビルは1階が店舗、2~11階はオフィスで、低層部は旧居留地の景観に配慮した外壁になるということです。



▲建て替えられる神戸銀行協会ビル

旧居留地連絡協議会 令和3年度の活動報告と令和4年度活動計画

2022年5月18日、コロナ禍で対面できなかった総会を3年ぶりに開催し、昨年度の活動報告と今年度の活動計画と予算が承認されました。

都心づくり委員会

活動報告

- ①委員会の開催(毎月1回)
- ②出店・工事等の相談対応(31案件)

活動計画

- ①委員会の開催(毎月1回)、
- ②広告・工事等の相談対応
- ③検討課題 迷惑自転車、配送者の停車 広告物ガイドライン改訂等

環境委員会

活動報告

- ①委員会の開催(2回)
- ②プランター維持管理契約(6/1更新)

活動計画

- ①委員会の開催(4回)
- ②プランター維持管理契約(6/1更新)
- ③クリーン作戦
- ④ノーマイカーデー運動
- ⑤放置自転車・バイク警告タグ貼り

防災・防犯委員会

活動報告

- ①委員会の開催(9回)、
- ②防災資材取扱訓練(12/12)

活動計画

- ①委員会の開催(10回)、
- ②防災・防犯研修等への参加
- ③防災・消防訓練の実施

親睦・イベント委員会

活動報告

- ①委員会の開催(9回)
- ②旧居留地名所巡りツアー(オンライン実施)(12/18)

活動計画

- ①委員会の開催
- ②旧居留地の歴史と建築を学ぶ in 神戸市立博物館(6/25)
- ③納涼会(8/24) ④パーベキュー
- ⑤賀詞交換会 ⑥レクリエーション

広報委員会

活動報告

- ①委員会の開催(2回)
- ②広報誌「居留地会議」No42発行(11/1)
- ③会員サイトリニューアル

活動計画

- ①委員会の開催(4回)
- ②広報誌「居留地会議」No43発行(8/1)
- ③WEBサイト運営

情報発信事業

(はいからプロジェクト実行委員会)

活動報告

- ①委員会の開催(12回)
- ②プロムナードコンサート等の開催(6回)
- ③居留地文化节(7/18、10/10、11/7)
- ④ワークズアンケート(武庫女大)
- ⑤居留地シンポジウム(2/16)

活動計画

- ①委員会の開催(12回)
- ②街角コンサート等の開催
- ③SNS情報発信事業(武庫女大)

新会員募集

入会のお問い合わせ、お申し込みは、078-333-2444 大丸神戸店(事務局/岡・土池)まで 078-333-4111 ノザワ(事務局/古賀)まで

旧居留地連絡協議会 神戸市中央区播磨町30大丸カーポート7階 kobe@kyoryuchi-club.com

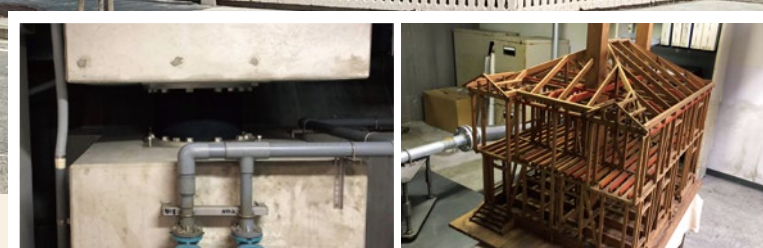


居留地会議

THE FORMER FOREIGN SETTLEMENT OF KOBE



40th 旧居留地連絡協議会



▲地階にある資料館では15番館が水平方向に40cmの揺れがあっても、免震ゴムで建物全体を支持する「耐震補強工事」を実際に見ることが出来る。

旧居留地連絡協議会が40周年を迎えるのを前に、新・旧役員のみなさんにその歩みを振り返ってもらい座談会を開きました。阪神・淡路大震災後を中心に、まちづくりの取り組みなどについて語り合っていました。(敬称略)

山本顧問 協議会に関わり始めたのは震災の2、3年前。当時はビルの容積率アップの要望があり、将来を見据えた地域計画プロジェクトチームを立ち上げていました。街並みについても話し合っていたところ、震災に襲われました。

旧居留地を含む三宮地区で10年間の再建状況を調べました。旧居留地は被害が大きく、106棟のビルのうち22棟が解体・撤去され、当初は再建も遅れがちでした。ビルの規模が大きいため設計に時

間がかかる。周辺の小さなビルの方が再建は速かった。しかし、時間が経つにつれ、旧居留地の復興は加速し、他地域を追い抜きました。10年後の復興状況はオフィス街の中でトップ。「神戸で一番の地域」という自負があったからではないですか。

李・広報委員会副委員長 震災翌月の2月6日、大丸の立体駐車場で臨時総会がありました。吹さらしの寒い中、当時の野澤太郎会長と南嘉明副会長ほか30~40名が防寒服にジーパン姿の着の身着のままでした。

富岡・元常任委員長 震災前からまちづくりの計画を進めていて、ベースがあったから復興計画を早くまとめられました。

旧居留地連絡協議会が来年3月、創立40周年を迎えます。発足は1983(昭和58)年で、母体となったのは終戦後に約30社が集まり、親睦と福祉に取り組んでいた「国際地区共助会」です。当時、地区内の近代建築物と歴史的雰囲気が見直され、旧居留地22ヘクタールを対象に神戸市都市景観条例に基づく「都市景観形成地域」指定が検討されていました。それを機にまちづくりへの意識が高まり、会員増強・運営体制の強化とともに名称も変更されました。

同年6月に都市景観形成地域に指定。85年に協議会が神戸市から景観形成市民団体の認定を受け、86年にはシンポジウム「旧居留地の昨日・今日・明日」が開かれました。こうした活動が評価され、87年には建設大臣の「まちづくり功労賞」を受賞しています。

その後、イベント開催なども積極的に進め、活動の幅を広げてきましたが、95年、阪神・淡路大震災が発生、国指定重要文化財「15番館」の倒壊など、多くの建物が深刻な被害を受けました。しかし、いち早く復興計画をまとめて再建を推進、歴史的環境と調和した街並みをよみがえらせ、中枢業務機能の強化、商業施設の充実を図りました。近年は新型コロナウイルス禍もありましたが、協議会は伝統を継承しつつ、新たな魅力づくりに取り組んでいます。

◆早くまとめた復興計画

山本顧問 震災から3カ月後、神戸市は旧居留地を含む三宮地区で地区計画を決定しました。都心機能を強化しながら、まちづくりのルールを確立し、再建を進める計画です。三宮は5地区が対象。旧居留地は、具体的な計画を早くまとめることができました。昔からの道路形態と区画割を残す▽緩やかに統一されたスカイライン(建物などが空を区切って作る輪郭)–といった内容が盛り込まれました。とにかく早くまとめようという雰囲気でした。

車・元都心(まち)づくり委員長 あまり目立つようなビルはつくらないようにといった話はしました。景観に合わないものは駄目だとかね。意見の相違はあまりなかったです。

松岡会長 震災当時、旧居留地には路面店は少なく、ビルの1階は、銀行、証券会社、保険会社の支店などが多かったですね。震災から少し経って金融機関の合併が進み、空気が増えた。大丸さんが動いてブランド店を増やしたという流れがあります。

西金・元常任委員長 当時は午後3時には店のシャッターが下りて寂しい街でした。業務地の色合いが強かった。大丸の長澤昭さんが店長(1986年就任)になってレトロなビルに海外ブランド店をオープンさせ始めました。レトロな雰囲気を生かす取り組みは震災前からあり、徐々に広がったのです。

—それぞれに震災当時の思い出を振り返ってください。

松岡会長 私は震災を全く知らないのです。サラリーマン時代が長く、当時は駐在で米国にいて、親から「食い扶持が増えるから帰って来るな」と言われました。1年半ぐらい経って帰って来ることができました。居留地で仕事をするようになってまだ15年ほど。協議会会長を務めているのかと、いつも自問自答をしています。

京都のように「ザ・日本」というものを大切にするのは分かりやすいのですが、旧居留地は西洋的なもの、新しいものを採り入れてきた街なのに、それを生かし、維持している。昔からの雰囲気を守ろうとの思いが脈々と受け継がれ、今も残っている。(震災で)変わらなくてよかったな、とは思っています。

南・都心づくり委員長 震災当時、高校3年で、夕方にうちのビル(日本ビルディング)の倒壊を知りました。父親は忙しくなりましたが、私は何もできない。何か手伝いたいとの思いはあり、それが家業を継ぐことにつながったのでしょうか。横浜の旧居留地のビルはオーナーの規模が大きいですが、こちらは規模が小さい。ただ団結力はあって、思いの強さで街を残してきたように感じます。

震災で5分の1弱のビルが建て替わり、高層化しましたが、それから20年以上は変化があまりなかった。この2、3年、三宮駅前もそうですが、旧居留地も新しいビルがぼつぼつと建ち始め、少し変わってきたという印象です。

◆まちづくりを優先

富岡・元常任委員長 私は転勤で神戸に来て、2005年に常任委員長になり、14年間活動しました。当時は復興の取り組みに少しぶれが見え始めた印象もありました。震災直後のまとまりを維持するのは難しい。会議に出席するのはサラリーマンが多く、居留地への愛情の程度もいろいろ。それでも何とかまとまっていた。

車・元都心(まち)づくり委員長 印象に残っているのはビル再建時の駐車場問題です。行政は同じ場所に大きな駐車場をつくれと言うが、難しい。都心づくり委員会、市役所と何回も話し合いました。結局、近隣に駐車場を設けることで決着しました。あの時、居留地のみなさんという話をし、理解もしてもらったのが思い出深いです。

西金・元常任委員長 当日の朝、居留地に駆けつけ、被害に呆然としました。直後は無事だったビルにテナントが殺到し、あつという間に満室に。賃料も上がったが、復興が進むと古いビルは空室が目立つようになった。金融危機で破綻する銀行も出てきて不安な時代でした。

都心づくり委員の時は広告物規制などに取り組みました。今だから言いますが、「自分の首を絞めている」と思う面もありました。テナントさんは看板を出したいのに、まちづくりを優先した。長い目で見ればそれが評価につながり、旧居留地に事務所や店を出したい気持ちを生むことになったのでしょね。

李・広報委員会副委員長 震災当日はひどい状況でした。夜になるとビルの前に消防・自衛隊・警察車両が毎日野営していました。まちづくりでは、大丸さんが力を発揮し、路面店を展開してにぎわいをつくってくれた。イベントでも、大丸の芸能部長さんに助けられました。

網本・常任委員長 私は1990年から93年まで旧居留地の大興ビルにいましたが、ビルオーナーの意向で旧居留地から事務所を移すことになりました。震災で大興ビルは倒壊、移転していたおかげで被災は免れました。その後やはり旧居留地には思い入れが強く2001年にこの地に戻ってきました。協議会に入ったのはその翌年です。ビルのオーナーや大企業の人たちが会員で私には分不相応な会に入ったと思いながら続けていましたが、当時常任委員長だった富岡さんから「親睦を図るための会だから遠慮せずに会合に出ればいい」と言われ、結局、今に至っています。とにかくみなさん旧居留地が好きな人たちの集まりと感じています。



▲大興ビル

◆居留地らしい活性化を

—旧居留地の現状と今後についての考えはいかがですか。

松岡会長 あくまでも一個人として意見を述べます。少し心配なことがあります。近代建築物がいくつかあり、商船三井ビルディングが100年を迎え、冊子を作られた。あのようなビルの維持にはとても費用がかかる。エレベーターの部品もすべて特注。商船三井さんには努力していただいています。ほかのビルがどこまで頑張れるか。行政の力を借りないといけないところが出てくるのではと思います。残していきたいので、懸念しています。協議会の話し合いでは、総論でまとまると各論反対が出にくい。こうした形が続いてほしいです。もう一つはにぎわいづくりです。現状程度でいいのか、もっと多くの人が訪れるようにするのか。もう少しにぎわってほしい気持ちもありますが、どこまでを求めるのか、線引き、落としどころが難しい。業務地として集客力があるだけの施設を呼ぶことが果たしているのかという問題があります。難しい判断です。

南・都心づくり委員長 都心づくり委員長を務めています。委員会

のイメージを踏襲しつつ次世代に魅力を残すために役立っているかは問い直す必要があるでしょう。例えばデジタルサイネージ(電子看板)などへの対応が時代の流れに合っているのか。出店したい人がいなくなるのでは困ります。駅から遠いのに居留地で出店を考えてくれるのは、ブランド・イメージなどと合っているから。そうしたイメージを次世代に残したい。三宮駅前が大きく変わるので、駅前と違う魅力を残していかないといけない。まちづくりは一人ではできないので、親睦を深め、仲間を集めながら模索していくしかないでしょう。



▲街角でのJazzライブ

山本顧問 コンサルタントとして旧居留地は仕事がやりやすい場です。意見をまとめようとの意識が強い。その姿勢が現在の街並み形成にもつながっているのでは。基本的には業務地の機能を大事にしないといけない。路面店が増え、人の流れが多くなりましたが、中核業務地機能がベースにあってこそその商業地化、観光地化だと思います。

李・広報委員会副委員長 地域内にマンションなどが増えた場合に協議会がどうなるかが少し心配です。別の地区でまちづくりに関わっていますが、マンション住民がまちづくり活動になかなか参画してくれない。今後も組織を強固にしていく方策を考えていく必要があるでしょう。

網本・常任委員長 会長も指摘された、人が押し寄せるようなまちづくりを進めるのか、現状のままでもいいのかは、賛否の分かれるところ。先日、昼下がりにはジャズライブがありました。ほどよい音楽が流れるまち、生演奏が聞こえるまちというのが居留地には一番似合うのでは。他のまちとは違う形、雰囲気を求めるべきでしょう。そうした活動が100年後も続いてほしいと思います。

座談会の出席者

- 松岡 辰弥 / 会長
- 網本 雅生 / 常任委員長
- 南 嘉邦 / 都心(まち)づくり委員長
- 李 啓洋 / 広報副委員長
- 富岡 良典 / 元常任委員長
- 西金 秀記 / 元常任委員長
- 車 和久 / 元都心(まち)づくり委員長
- 山本 俊貞 / 顧問

ファシリテーター / 桜岡 裕章

野澤 太郎 顧問を偲んで

本年2月23日、当会の顧問である野澤太郎さんがお亡くなりになりました。実は亡くなられた日の一週間後に野澤さんとお会いする約束があったのですが、その確認の電話をした時に訃報を聞き、なかなか信じられませんでした。

野澤さんは1992年に当会の会長に就任され、27年もの間、当会を指導、牽引頂きました。阪神淡路大震災発生翌月には臨時総会を開き、復興への対応を協議するなど、常にリーダーシップを発揮されました。また震災で全壊した十五番館(国指定重要文化財)を3年かけて建築当初の姿に戻されました。明治初期の居留地時代の雰囲気を感じられる十五番館は、我々この地区で働く者にとっても誇らしく思えるものです。開港5都市景観まちづくり会議(函館・横浜・新潟・長崎・神戸)の市民団体が集う会議)にも長年野澤さんには神戸の顔としてご出席いただいていた。温和人望が厚い野澤さんの周りは、いつも他都市の人が集まってきていました。まだまだ公私ともに色々教えて頂きたかった、というのが本音であり、心残りとなりません。野澤さんが愛された旧居留地をさらによい街にしていきたいと改めて思うとともに、野澤さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

旧居留地連絡協議会 会長 / 松岡 辰弥

